



松川に造成された「松川第1砂防堰堤」。国立公園にあることから、環境や景観、生態系に配慮しています。付近には湯ノ又公園も整備されています

素晴らしい まちづくりのために

平成17年9月1日の八幡平市誕生以来、平成18年度からの10年間を計画期間とする八幡平市総合計画基本構想に掲げる将来像「農と輝の大地」の実現を目指して取り組んできたさまざまな事業やプロジェクト。それらは着実に地域のありようを変化させ、新しい発想や協働のきっかけも生み出しつつあります。環境や暮らし、産業や文化などの分野で、現在取り組んでいる施策について紹介します。

自然と
共生する、
快適な環境の
まちづくり

連携に
よって築く、
躍進する産業の
まちづくり

健やかな、
創造性あふれる
人材の
まちづくり



恵まれた自然環境を有する八幡平市のシンボルのひとつである、明治百年記念公園の小水力発電所。農業用水路から発電用の導水路を引き、その水により発電します

自然環境の保全と活用

自然と共生する、快適な環境のまちづくり

自然災害から地域を守る 治山・砂防事業推進を要望

八幡平市は、岩手山や八幡平、秋田駒ヶ岳と多くの活火山群に囲まれており、土石流や火山対策が重要な施策の一つです。本市のほか、岩手県、秋田県の4市町で構成される「八幡平山系に係る直轄砂防事業促進期成同盟会」では、昭和61年の結成以来、砂防事業推進の要望活動を行っています。

市では、岩手山を水源とするナリヤ沢、小水無沢、洞ヶ沢東沢、西根牧野沢をはじめ、松尾地区の松川や北ノ又川、赤川などの流域に11カ所の砂防ダムを設置したほか、床固工や遊砂地などが整備されています。これら砂防ダムは、平成25年8月と9月の集中豪雨の際にも土砂や倒木の流出を防ぎ、下流域の被害を最小限に抑えました。

近年、災害は、局地的な大雨

など、これまでにない異常な気象が原因となっています。災害対応に「100%」ということはなく、今後も地域住民の生命と財産を守る対策を講じていきます。

美しい自然は私たちの宝 保全し利活用の方策を探る

市は豊かな自然に恵まれ、その恵みを暮らしや産業に生かしてきました。自然を守り、健康で潤いと安らぎに満ちた快適な生活を営む環境を創り出すため、環境基本計画の策定などを通して、自然環境の維持と保全に努めています。

さらに、地熱や木質バイオマス、雪氷熱などの再生可能エネルギーの実用性を探り、省エネルギー対策としてクリーンエネルギー自動車導入などの環境対策にも取り組んでいます。

自然環境の保全と活用

治山・治水

資源エネルギー

自然環境



松川地熱発電所は、1966(昭和41)年に運転を開始した日本で最初の地熱発電所。地熱エネルギーを利用しているため、自然環境に与える影響が少ない発電施設です

生活環境の整備

自然と共生する、快適な環境のまちづくり

地域に根ざした防災組織として活躍が期待される消防団。市には本部ほか36分団があり、地域の安全を守っています。しかしなが

ら、団員の減少や高齢化が進んでおり、市では、防災対策専門員を中心に地域防災についての再構築・計画化を推進。自治会を中心とする自主防災組織の育成を急いでいます。

自主防災組織の育成と「特別消防班」の設置

毎年9月1日の「防災の日」に合わせて開催される岩手県防災訓練。東日本大震災以降、その重要性は増えています。平成26年8月30、31の両日、本市を会場に県防災訓練を実施。田頭小学校では全児童を対象に防災教育が行われ、子どもたちは、その後の訓練にも参加しました。参加した児童からは「自分たちにもできることを考えてみた」などの声が寄せられ、防災意識の啓発に役立ちました。このような防災教育の機会は、今後も定期的に設けることが重要です。



消防団を中心に実施される火災防衛訓練。市民への防災意識啓発にも役立っています

また、豪雨災害も多発する傾向にあり、市では各消防団管内で防災に関する懇談会を開催し、危険地域の情報共有を図っています。

また、豪雨災害も多発する傾向にあり、市では各消防団管内で防災に関する懇談会を開催し、危険地域の情報共有を図っています。

高まる自然災害への意識 情報共有でその日に備える

そのような中、平成24年度、市役所内に「特別消防班」を設置。消防団員不足による対応の遅れをなくするため、本庁舎・安代総合支所に消防車両を配備し、火災発生時には当該地の職員がいち早く現場に向かいます。広大な市域を有する本市ならではの、先駆的な取り組みとして注目を集めています。

長野県御嶽山の噴火をきっかけに、火山防災への意識が高まっています。松尾地区にある「イーハトーブ火山局」は、岩手山火山に関する情報発信拠点であり、防災についても学べる施設として利用者が増えています。

また、豪雨災害も多発する傾向にあり、市では各消防団管内で防災に関する懇談会を開催し、危険地域の情報共有を図っています。



主要地方道柏台松尾線から望む岩手山。市道は国道282号を起点に田山、荒屋新町、細野、松尾、平館、大更地区を中心に配置されています

社会基盤の整備

自然と共生する、快適な環境のまちづくり

西根バイパスが開通 地域交流の促進に弾み

市の都市計画道路全7路線のうちの一つとして、平成6年に工事が始まった通称「西根バイパス」が平成26年12月25日に全線開通しました。

西根バイパスは、一般国道282号の幅員狭小や線形不良などに起因する交通渋滞の緩和と地域交流の促進を図るために整備されたものです。整備は、1期工区（平成19年度開通）と2期工区に分けて実施され、開通により、大更や平館市街地の交通混雑などが解消されました。

大更駅を拠点に取り組み コンパクトシティづくり

西根バイパスの完成に伴い、JＲ花輪線大更駅の東側土地利用計画の実現が本格化しています。西根バイパスから大更駅に通じる

市道大更中央線の設計は一部終了、東口に設けられる公共施設用地には西根病院の移転新築が正式に決定しました。市道大更中央線の沿道は今後、公園を含んだ住宅供給可能用地としての整備を検討しています。一方、大更駅西口でも、西口駅前広場の整備工事がスタート。駅の東西を自由通路によつてつなぎ、駅を中心とした集約型のまちづくり（コンパクトシティ）の実現を目指します。

ニーズに応じた道路整備で暮らしの安全と安心感を

これまでの幹線道路整備に続き、市が管理する市道など985路線（平成25年度末現在）についても、予算や計画期間を考慮し、より効率的、効果的に整備するため、整備優先度を位置付けした「八幡平市道路整備計画」に基づき、道路整備を進めていきます。本計画の期間は20年間とし、社会情

勢を鑑みながら5年に一度、見直しを行っていきます。さらに、既存の道路で課題のある箇所などは、小規模な改良整備によつて、道路機能や危険箇所などを改善。安全な道路空間の確保につながるものについては、地域の人々と一体となつて取り組む「暮らし安心まちづくり事業」を創設し、暮らしの安心感の向上を図っていきます。



市道大更中央線付近。新たな住宅街が形成されつつあります

生活環境の整備

- 環境衛生
- 公園・緑地
- 公害防止
- 交通安全
- 犯罪防止
- 消防・防災



市民参加による救命講習会の実施により、地域の総合的防災能力の向上や自主防災組織の育成につながる動きが期待されます

産業の振興

産業分野と重要課題を抽出
項目ごとに施策を設定

産業振興では「農業」「林業」「工業」「商業」「観光」の5つの主要産業のほか、「雇用対策」「後継者育成」といった分野を設定、さまざまな施策を展開しています。
基幹産業の農業では「地域ブランドを生かした農業の展開」「担い手の確保・育成と地域営農の確立」「資源循環型農業の展開」「生産基盤整備の推進」「農業と他産業の連携」という5テーマを項目として掲げ、各種事業



間伐集材の様子。搬出された間伐材の木材利用および木質バイオマスエネルギーとしての利用料の増加が今後のテーマです

を実施しています。

林業の新しい活用方法
木質バイオマスエネルギー

林業も重要な産業のひとつとして位置付けています。山林は、市の総面積のおよそ78パーセントを占め、民有林の大半は利用期に達しており、造林・下刈り・枝打ち・除伐・間伐などの森林整備事業が進められています。その中で近年注目されているのが、間伐材などを利用する木質バイオマス発電です。

県内では、近隣の戸町のほか花巻市、野田村などに発電施設の建設が予定されており、広大な森林を有する本市は、発電燃料などの素材生産地として注目されています。市では、素材生産の効率化を図るための高性能林業機械に対するかさ上げ補助など、林業事業者に対する支援を行うとともに、市民の皆さん



に対しては、ペレット・薪ストーブなどの購入補助を実施し、総合的な森林資源の木質バイオマスエネルギー利用を促進していきます。

被災失業者への雇用と活躍の場を
奨励金ほか支援・研修事業

雇用対策では「東日本大震災による被災失業者の雇用対策」に取り組み、震災等緊急雇用対応事業などを実施しています。また、後継者育成では「産業の担い手確保のために」というスローガンを掲げ、新規就農者等支援事業などに積極的に取り組んでいます。



平成26年度には岩手県立大と協働で住民自治による地域づくりの進展と地域計画策定に関する研究も行いました

12のコミセンを核にした
コミュニティの活力づくり

平成26年4月、市内12地域の公民館は「コミュニティセンター（通称コミセン）」と名称を改め、より地域に密着した活動拠点としてスタートしました。コミセン化は、これまで公民館が行ってきた生涯学習やスポーツ事業に加え、いろいろな地域活動を自主的に企画・運営し、コミュニティの活力づくりをより一層推進する目的があります。

運営は地域振興協議会
地域の「やりたいこと」を実現

「コミセン」を運営するのは、各地域に由来からあったコミュニティを単位に設立された地域振興協議会です。市は、指定管理者制度を利用して、運営を協議会に任せ、「地域の人が地域でやりたいことを自分たちで決定できる」すなわ

ち、自治の枠組みを整えました。市は、コミセンについて月1回の事務局会議や4カ月に1度の代表者連絡会議を通じ、運営上の問題などを全体で共有しています。また、コミセンの職員を対象に、県の生涯学習支援センターから講師を招いて研修を行うなど、生涯学習や企画立案について学ぶ機会を提供しています。

予算配分の仕組みを大改革
地域と地域のつながり重視

「コミセンのスタートに合わせ、従来の「協働によるまちづくり補助金」を大幅に見直し、新制度「地域づくり一括交付金」を創設しました。これまでに1事業ごとに申請・交付・精算されていた交付金を12の協議会ごとに一括交付し、各事業への配分などを協議会で決められるようにしました。加えて、協議会とNPOまたは複数の協議会の連携を促すため、「地域連携



さまざまな「コミセン」事業を通じ、世代間交流など地域のつながりが盛り返っています

事業」を別枠で設けています。こうした制度の創設により、より円滑な連携が行われるよう支援していきます。

連携・交流の促進

- 広域行政
- コミュニティ活動
- 交流ネットワーク

連携・交流の促進

連携によって築く、躍進する産業のまちづくり



雄大な自然をベースに展開される本市の農業。ほうれんそうやりんどうはじめ積極的な農業支援策を行うことで新規就農者の増加を目指しています

教育・文化の充実

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

生涯学習で何よりも大事なものは、市民の学習意欲の向上です。

学習意欲の向上を図り 子育て相談環境の充実も

施策は「総合的な生涯学習推進体制の整備」「魅力ある多様な学習機会の充実」「多様で個性のある文化の創造」「スポーツに親しむ環境づくり」の4つのキーワード」に展開しています。

また、コミュニティセンターをはじめとする生涯学習施設を利用し、創作活動ができるよう支援しています。

教育・文化の充実

学校教育

社会教育

スポーツ

芸術文化

市民の日頃の芸術文化活動の成果を披露し、鑑賞する場「八幡平市芸術祭」作品展示や舞台発表、演劇発表などが行われます。



学びが人と地域を豊かに 八幡平市生涯学習推進計画

市では、年代を問わず誰もが自由に学べる機会をつくるため、八幡平市生涯学習推進計画「はちまんだい学びの郷プラン」を平成21年度に策定しました。これは、市民の皆さん一人一人が学びを通して自己を高め、その成果を地域で生かし、市民が主体となつて生涯学習によるまちづくりを目指すというものです。

芸術文化の発表と 鑑賞の場を提供

本市では情報発信のほか「八幡平市生涯学習まちづくり出前講座」のメニューを拡充し、さらに「八幡平市芸術祭」や「コミセンまつり」などの学習成果発表の場の充実も図っています。また、児童・生徒の健全育成を図る「八幡平市総合教育支援事業」を実施しています。



地域の特性を生かした従来の公民館事業をさらに発展させ、地域が主体となつてさまざまな行事が行われています



成人検診は働き盛り世代にとって病気の早期発見にもつながる機会。受診しやすい環境づくりに取り組んでいます

保健・福祉の充実

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

健康は心豊かな生活の基礎 八幡平市健康づくり21プラン

市では、市民の皆さん一人一人が健やかで心豊かに生活できることを目指しており、具体的な行動目標となる「八幡平市健康づくり21プラン」を策定。栄養・運動・喫煙・がん・循環器疾患・こころなど12項目ごとの目標を定め、健康づくりを推進しています。



温泉施設を利用した高齢者健康教室。人気の高い講座です

特に、健康管理や病気の早期発見に有効な成人検診は、働き盛りの年代が受診しやすいよう各種検診を1日で行う「総合健診」を設定。さらに、総合健診と乳・子宮頸（けい）がん検診を合わせた「ミニドック検診」、仕事帰りにも受けられる「夕方検診」などを設けました。

「八幡平市ならではの」資源を生かした高齢者健康教室

平成26年度から各地域のコミュニティセンターと協力してスタートした「八幡平市市民健康講座」。医師や管理栄養士、健康運動指導士などの外部識者を招き、西根・松尾地区で開催し、健康への意識向上に一役買いました。

高齢者の健康づくりには、市内4カ所の温泉施設を利用した健康教室を週一回開催。グラウンドゴルフなどのニースポーツを取り入れたメニューが好評です。

保健・福祉の充実

保健

医療

地域福祉

高齢者福祉

児童福祉

障がい者福祉

母子・父子福祉

0歳児保育の施設を増やし 子育てしやすい環境づくり

市では、子育てしやすい環境づくりに取り組んでおり、第三子出産への祝い金のほか、乳幼児健診などを行っています。また、要望の高い0歳児保育についても、市内2つの保育所で新たに始まり、公立・私立合わせて9つの保育所で実施しています。

西根・安代の両地区にはつどいの広場を設置し、子育て家庭の交流の場を提供するとともに、子育て相談などを行っています。